校内研究だより

学びの深化

No. 4

令和４年 10 月 25 日

研究主題　「学ぶこと・考えることを楽しむ」

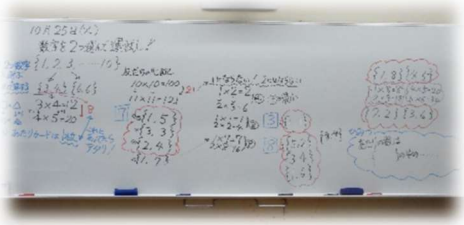
～自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫～

10 月 25 日、今年度 4 回目の校内研究が行われた。今年度 4 回目の校内研究は、「算数科」での実践となった。今回は初めて、出前授業の形をとり「授業・人」塾代表である田中博史先生に授業実践を行っていただいた。5 年 2 組で行われた「数字を 2 つ選んで運試し！」は、児童がきまりを帰納的に見つけていくか、児童とのやりとりを中心に授業を進めていった。

ルールの確認から始まり、児童が自分のラッキーナンバーを計算することができるように伝えあった。これが全員に参加している気持ちを持たせることとなった。大きな数字で当たるか心配な児童の考えを共有し、全員が心配事を解消した後、改めて数字を修正してもいいように促した。

数字のなかに当たるはずのない数がある事に気づいた児童もいた。1 番小さくなりそうな数字で試し、「1」「2」はババみたいではずれだと表現する姿を見ることができた。何度も修正する中で何度も計算をし、いざ当選発表。当選番号になる 2 つの数字の組み合わせは 1 つだけではなかった！ 複数の組み合わせがあること、他の当選番号との比較をくり返す中で、あたりの番号になる組み合わせを帰納的に見つけることができるようになった。

田中先生と児童のやりとりの中では、誰もが活躍できる場面があった。ルールの確認や伝えあう活動、心配事を共有する場面、当選発表の工夫はどの教科にも活用できるものばかりであった。2 つの自信「参加できた自信」「答えられた自信」を発表の場面では意識することで、答える準備ができるような声かけ、正答か他の児童と確かめる活動を促す声かけなど児童への支援の形も変わってくる。



その後の授業解説では、児童の理解の度合いを授業内で把握し、無理に次の活動に移さないことや、全員が授業に参加する意識を始めに作らなくてはいけないことなど細かく解説していただいた。5年生では帰納的な考えから、演繹的な考えへの形成は必要になる。しかし十分に例示してきまりを見つけることを楽しんでいる場面では、次の段階に無理に進む必要はない。考えた経験を豊かにすることの大切さを改めて気づかせていただいた。

今回の研究会でご指導いただいた、児童が最大限に学びを楽しむための工夫を活かし、文教大学付属小学校での児童の学びの質を高めていく。